お　知　ら　せ
令和２年４月２２日
気象研究所

北極海海氷の最新の将来予測研究に貢献しました

北極海の海氷面積は、夏になると減少し、冬になると再び増加します。この季節変動に加えて、地球温暖化の進行に伴い、北極海の海氷面積はここ数十年で急速に減少しており[1]、北極海の気候や生態系に大きな影響を与えていることが、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書等で指摘されています。

地球温暖化の進行に伴う北極海の海氷域面積についての世界21の研究機関による予測結果が、ハンブルク大学のDirk Notz教授を中心にまとめられ、令和２年４月17日に国際誌Geophysical Research Lettersに発表されました[2,3]。気象研究所も予測実験とデータ解析等に貢献しました。

この論文では、地球規模の二酸化炭素の排出を今後急激に削減し、世界平均した年平均気温の上昇を産業革命以前から２℃以下に抑えたとしても、北極海で一時的に海氷がほとんどない状態になる（北極海の海氷域面積が100万平方キロメートルを下回る）夏が2050年までには出現しうると、多くの気候予測モデルが予測していることを示しています。

気象研究所では、引き続き、数値シミュレーション技術の高精度化に努め、地球温暖化対策に資する情報の発信を積極的に行っていきます。

[1] https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/shindan/a_1/series_global/series_global.html
[2] https://doi.org/10.1029/2019GL086749
[3] https://www.cen.uni-hamburg.de/en/about-cen/news/11-news-2020/2020-04-20-sea-ice-notz.html

問い合わせ先：
気象庁気象研究所 全球大気海洋研究部 第四研究室 主任研究官　豊田
TEL：029－853－8661
気候・環境研究部 第四研究室長 辻野
TEL：029－853－8657